

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770800809		
法人名	株式会社かんでんジョイライフ		
事業所名	グループホームしらさぎ		
所在地	大阪府大阪市東住吉区今川8丁目3-10		
自己評価作成日	平成26年10月7日	評価結果市町村受理日	平成26年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームしらさぎの介護は、「出来ないことを補い支援する介護」ではなく、単に一般論としての「普通の行為をしていただく介護」でもなく、特性を分析し個々に「まあ普通にやってるよ」といった印象が残る生活環境づくり・行為への支援を中心に考えて対応しています。
また「個」のみの視点ではなく、「個」と「公」の均衡のとれた視点からアプローチする事によって「社会性の維持」を考えます。
直接的な「介護」「医療」「看護」などは利用者にとって「あくまでも使うもの」と捉えています。
グループホームと家族等との関係性として「グループホームは何でもさせていただけます、すべてお任せください」や「グループホームに協力してください」ではなく、「利用者を共に支える」というスタンスです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(株)かんでんジョイライフについては、将来の高齢化社会の需要を見込み、大阪府下等で多数の介護施設や事業所を展開されているが、グループホームについては当「グループホームしらさぎ」1箇所のみである。
通りのすぐ前には白鷺公園をはじめ緑が多く、都会のオアシスのような感を受ける。利用者についても開設直後からや数年入居されている方が多くADLもかなり低下してきているが、それでも外気に触れる散歩は重視し職員と1対1で出かけ入居者の意見や要望を聞く機会としている。家族会も年3回日曜日に食事やレクを兼ねて開いていて、毎回多数の家族が参加され意見の交換会ともなっている。職員についても12名の介護福祉士がおり、介護実習生を受け入れる等地域に貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームしらさぎの理念・目標を文化し掲げ、会議等でもそれに基づいて話し合っている。	当ホームの基本理念として「えゝ塩梅な暮らし」、目標として「良い状態を1日でも長く」と決め、玄関に掲示し、職員はもとより家族、地域住民にも理解を求めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板をまわしたり、近所の商店なども利用している。町内会の行事(花見・夏祭り・敬老)などにも参加している。	地域行事でもある夏祭りや近隣の中学校で行われる敬老会、地域振興センターでのレモン喫茶に参加して地域住民と交流している。又、地域ボランティアや介護実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアサークルなどを対象とした認知症研修会の企画実施したことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施している。町会の方や医師、ご家族様などに参加いただき、取り組みの状況報告、その他様々な意見交換ができています。会議で出た意見をサービスに取り入れている。	少し途切れた時期もあったが、現在は開催日を奇数月の第三木曜と固定し、地域包括支援センターや町会の有力者及び利用者の家族の参加も得て、2ヶ月に1度開催し、情報と意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に必ず区の地域包括の方に参加戴き、事業所の実情やサービスを伝えている。	毎月1回開かれるグループホームネットワーク会議に参加したり、区ケアマネ連絡会に参加して意見交換をしているが、肝心の区介護福祉課とは連携があまりとれていない。	介護保険運用の市町村の窓口はこの地区では区介護福祉課であり、今後良き相談相手として現場をよく知ってもらうためにも、積極的に連携を保つ努力が期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、虐待防止と関連して月に1回会議で話し合いを行っている。(勉強会を年に3回実施)	当ホームで身体拘束・虐待防止委員会を立ち上げ、研修等を通じて身体拘束の弊害性については職員もよく理解している。ユニット間の行き来は自由であり、昼間は玄関の施錠もせず見守りケアを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、身体拘束と関連して月に1回会議で話し合っている。(勉強会を年に3回実施)月に1度スタッフに振り返りシートを提出していただき、意識の向上、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に参加し、制度の理解を深めている。また、スタッフ会議でも話し合われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明と質疑応答を行い、理解・納得していただけるよう努めている。家族懇談会を実施し、改定などの説明も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを実施し、意見や要望を聞き、スタッフ会議で話し合い運営に反映している。また、年に3回の家族会でも意見交換を行っている。	利用者からは、職員と1対1になった機会(居室内、入浴時、散歩時等)に聞き出す工夫をしている。家族からは、来訪時や年3回開かれる家族会にもよく参加されるので、意見や要望を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で積極的に意見交換を行っている。	普段から意見や要望を言い易い雰囲気があるが、毎月開かれるスタッフ会議でも発言して貰っている。やりがいを引き出す工夫として、社内でのスキル認定制度があり、それを基に管理者の個別面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内のスキル認定制度を活用し、スタッフが目標を持って成長していけるように環境整備に努めている。それに伴う研修会も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTに取り組んでいる。社内研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者連絡会を設置、参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入までにご本人と面談を行ったり、ご家族や知人の方々から情報を収集し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入までにご家族との面談で質疑応答を行い、お困りの事や不安な事の把握に努めている。また、その際に「できる事・できない事」を明確に伝えるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入までにしっかりと情報を集め、それをもとに速やかに暫定的ケアプランを作成し実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相互扶助の精神に基づく人間関係を大切にし、日常の家事等ともに行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも協力をお願いし、共に本人を支えていく関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近隣の方々に来訪していただいている。馴染みな店や場所にも行き、ご本人が安心して生活していただけるよう支援している。	最初のフェースシート作成時、本人や家族から馴染みの友人・知人や場所を聞き出している。面会に来られた時には歓迎している。馴染みの場所としては、お店、理・美容院、喫茶店等があり、個別に訪問を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自身で他の方との関わりを持つ事が難しい場合は、スタッフが間に入り支援を行っている。適時コーディネートを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から相談があれば対応している。 必要な場合は支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしのシートの生活歴などを参考に、その方が「普通」と感じられる内容で対応している。	自宅は必ず訪問し、生活歴やこれからの暮らし方の希望、趣味等を把握しフェイスシートを作成している。入居後も本人の状態をしっかり確認し、介護記録や引き継ぎ日誌に記入し、職員全員で共有して次回のケアプラン検討の参考にしてしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式や独自の様式を活用し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常をしっかり観察し、少しの変化にもすぐに気づけるよう現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフによる月1回モニタリングを実施。それをもとにカンファレンスを行い、ご本人の意向やスタッフの意見を取り入れ、介護計画を作成している。	本人本位のケアプランを立てるため、本人についてのあらゆる情報を集め、家族の要望も取り入れカンファレンスを開いて立てている。モニタリングは毎月行い、ケアプランの変更や追加については原則3ヶ月ごとに検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の様子や変化を記録し、他のスタッフに伝え、ケアに活かしている。また、ご家族との情報の共有のためにも使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊、受診などご本人のニーズに合わせて個々に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの協力を得て、花見や祭りなどの行事に参加している。近所の喫茶店やスーパーなども利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携をとりながら、必要時、他医療機関を受診するなど、個々に合わせた支援を行っている。	入居後のかかりつけ医については、入居時に、本人・家族の意向で決めている。協力医の定期往診は、内科は2週間に1回、歯科は毎週1回であるが、従来からの医師の診察を望む利用者は、緊急事態の場合を除き、家族の付き添いで受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を実施し、日常の状態を伝え適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、医療機関やご家族と情報交換を行い、入院中・退院後の適切な対応が行えるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にご本人、ご家族の意向を聞き話し合いを行っている。状況に合わせて医療機関にも往診対応していただけるよう協力をお願いしている。	入居時に、「重度化した場合の対応指針」で説明し、その内容につき同意を得ている。重度化の場合には、状況により医師の診療の手配をし、医療行為が必要であれば入院の措置を取ることにしている。当面ホームで利用者の看取りは考えていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、スタッフ全員で周知している。研修にも参加し、救急対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、防災訓練を昼・夜の設定で実施している。避難の際、近隣の方々にも協力をお願いしている。	災害対策マニュアルを作成し、消防署の指導を受けながら年2回の防災訓練を実施している。特に、夜間の避難については、同じ経営体に属する営業所が隣接しており、その援助を受ける体制はできているが、共同訓練の実施経験は未定である。	防災対策マニュアルは、災害の種別に対応したものを作成し、災害の特性を予測した訓練実施が大切である。又、全職員が、臨場感のある体験を身につけ、うろたえず、適切な行動を選択実施できるよう、繰り返しの訓練が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に接遇研修などを受け、人格を尊重しプライバシーを損なわない対応を行っている。月に1度スタッフ会議で、声かけや対応の振り返りを行い、良い所、悪い所などを話し合っている。	職員は利用者が何を望んでいるかを常に考え、それに応えるように努力している。利用者への言葉かけや寄り添う態度も、心をこめ、優しさに満ちた様子がかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「自己決定した」という印象が残るように対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて「普通」と感じられる対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着やすさを優先するのではなく、その人らしさを大切に支援している。外出など、おしゃれの機会を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、皿洗い、朝食の食材の購入など、ご利用者と一緒に行っている。食事中、音楽や会話等、楽しい雰囲気作りに努めている。	朝食はホーム独自のメニューで提供し、昼食と夕食は、メニューと食材を業者から提供を受け、職員が調理をし、利用者は能力に応じて、盛り付け、配膳、洗いものなどを協働している。職員も食事を共にし、楽しい雰囲気を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや習慣に合わせて食べ物、飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアを実施している。週一回の歯科医の訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、排泄パターンを把握し声かけを行っている。状態に合わせて、リハビリパンツから布パンツに変更するなど、快適に過ごしていただけるよう支援している。	自立している利用者を除き、職員は、各利用者の排泄パターンやもおした時のしぐさを把握し、トイレに誘導している。誘導時の声かけには自尊心に配慮した工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物(乳酸菌、食物繊維など)の工夫や運動を行い、予防に努めている。医師にも相談しながら適切な排泄ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間、順番、回数、方法など希望に合わせた対応を行っている。	基本的には、週に2から3回の入浴とし、午後の時間帯で希望にあわせた対応をしている。入浴は気持ちを和やかにするので、職員との会話も弾んで、本音が聞ける貴重な時間となっている。季節により、菖蒲湯などを楽しむことがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせて休んでいただいている。ご自身で判断が難しい方には、声かけや環境を整える等の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について医師に確認し、スタッフ間で情報を共有している。すぐに確認できるようファイルに薬情報を綴じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や家事、晩酌などその人の習慣や楽しみを大切に支援している。状況に合わせて個人対応や適したグループを設定し対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて買い物や散歩の支援を行っている。ご家族や友人の方々の協力や、外食や旅行なども行っている。	利用者は、全体として重度化が進み、外出には利用者1名に職員1名の介助が必要となるため、日常的な外出は十分とはいえない。近くの公園、スーパーでの買い物、「ボランティア喫茶」をのぞいたり、時には、揃って車で季節の花見に遠出をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人に安心していただけるように、希望があればご家族に相談し、財布をもっている。買い物もできる方はご自身でしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のスペースやソファ、中庭など個々に合わせた居心地のよい空間づくりに努めている。フロアの壁にも写真や手芸品など季節を感じていただける工夫をしている。	広く、明るく、清潔な居間兼食堂には、テーブル、椅子、テレビ、ソファ、畳の間などを設え、1階の居間から中庭の植え木の緑と可憐な菊の花が望まれる。壁には、行事の写真、手芸品、などを飾り、心が和む雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が落ち着いて過ごされている場所を大切にしている。気の合う方同士が自然に関われるように支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までに使っておられた、タンスや椅子、仏壇など馴染みの物を持ってきていただき、居心地の良い居室になるよう工夫している。	設備基準よりかなり広い居室に、馴染みの家具類を入れて、写真・飾り物などを配置し、家庭の延長の雰囲気があり、入口扉には、入居者の表札をしっかりと掲げ、我が家かとして、心休まる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など、その方に合わせてわかりやすく掲示したりと工夫している。状態にあわせて手すりや椅子などを活用し、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。		